

令和5年度第3回紀南地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

- 令和5年度紀南地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・ P 1
- 【資料1】 令和5年度第2回紀南地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・・ P 2
- 【資料2】 紀南地域新高等学校の校名について・・・・・・・・・・ P 4
- 【資料3】 紀南地域新高等学校の概要・・・・・・・・・・ P 5
- 【資料4】 紀南地域新高等学校の学びについて・・・・・・・・・・ P 6
- 【資料5】 入学者選抜（全日制）について・・・・・・・・・・ P13
- 【資料6】 部活動について・・・・・・・・・・ P14
- 【資料7】 制服について・・・・・・・・・・ P15
- 【資料8】 校章、校歌について・・・・・・・・・・ P18
- 【資料9】 高校生活入門講座（オープンスクール）について・・・・・・・・ P19

令和5年度 紀南地域高等学校活性化推進協議会 委員名簿

No	区分	所属及び名前
1	学識経験者	三重大学教育学部 教授 平山 大輔
2	地域有識者	熊野商工会議所 青年部幹事 森本 健一
3		文恵丸水産 代表 長山 行文
4		紀宝町商工会 理事 産屋敷 道博
5	市町教育委員会	熊野市教育委員会 教育長 倉本 勝也
6		御浜町教育委員会 教育長 辻本 誠一
7		紀宝町教育委員会 教育長 西 章
8	小中学校PTA代表	紀南PTA連合会 会長 中澤 武
9		紀南PTA連合会 進路研究委員長 和田 泰史
10	高等学校PTA代表	県立木本高等学校PTA 会長 道前 涼太
11		県立紀南高等学校PTA 会長 中嶋 悦雄
12	同窓会・地域代表	県立木本高等学校同窓会 会長 森岡 忠雄
13		県立紀南高等学校 学校運営協議会 会長 山本 章彦
14	小中学校校長代表	御浜町立尾呂志学園小・中学校 校長 高田 有治
15		紀宝町立相野谷中学校 校長 矢田 哲也
16	小中学校教員代表	御浜町立御浜小学校 教諭 木下 雄介
17		御浜町立阿田和中学校 教諭 市村 一
18	県立高等学校長	県立木本高等学校 校長 福田 英成
19		県立紀南高等学校 校長 辻 孝明
20	県立高等学校教員代表	県立紀南高等学校 教諭 込谷 徳隆

令和 5 年度第 2 回紀南地域高等学校活性化推進協議会の概要

1 日時 令和 5 年 1 1 月 2 0 日（月）19 時 00 分から 21 時 00 分まで

2 場所 三重県熊野庁舎 大会議室

3 概要

令和 7 年度に木本高校と紀南高校を統合して開校する紀南地域新高等学校（仮称）について、両校の校長をリーダーとするワーキング会議における検討状況を報告し、新高等学校のあり方について協議を行いました。

また、今年度から三重大学が紀南地域を拠点として取り組む「共創の場形成支援プログラム」について、大学のプロジェクトリーダーから説明があり、紀南地域の高校との連携について意見交換が行われました。

主な意見は次のとおりです。

《紀南地域新高等学校のあり方について》

※WL＝紀南地域新高等学校ワーキングリーダー（木本高等学校長、紀南高等学校長）

○ 総合学科の系列についてどのような経緯で決まったのか。また、将来的に系列を変更することはありうるのか。

⇒（WL）系列は 1 学級あたり 2 系列が標準的であり、これまでの両校の取組や地域の実状をふまえて編成した。今のところは考えていないが、教育課程の見直しの中で、各系列の内容を変更することはありうる。

○ 総合学科の入学者選抜について、入学後に希望する校舎で学べるよう、一括募集としてはどうか。

⇒（WL）一括募集とすると、年度によって両校舎の入学者数に偏りが生じ、学校運営に影響が出ることが予想される。子どもたちに学びの選択肢を安定して提供し、日々の学校生活の中で社会性や人間性をより育めるよう、一定人数の中で活動する機会を確保しやすい校舎別募集としたい。

○ 総合学科は校舎によって設置される系列が異なるので、校舎別募集ということは、生徒は学びたい内容によって校舎を選んで出願することになるのか。

⇒（WL）現在、例えば木本高校か紀南高校か、普通科か総合学科かという選択をしているのと同様に、各校舎や各系列の特色を参考に出願する校舎を選んでほしい。

○ 総合学科の系列について、入学後に学びたい系列を変更することはできるのか。

⇒（WL）入学後に各校舎の中で系列を選択することになるが、校舎を越えて系列を選択することはできない。

○ 総合学科について、校舎を越えた科目選択はできるのか。

⇒（WL）両校舎に共通する「産業社会と人間」などの科目で、合同授業を実施することはありうるが、校舎を越えた科目選択は想定していない。各校舎の中で、その系列でしか選択できない科目と系列によらず選択できる科目を開設する予定である。

○ 各系列の特色に合わせて地元の多様な産業に関わる方を講師に招くなど、地域に密着した授業をもっと増やしてはどうか。

- ⇒ (WL) 新校の探究活動においても、両校の地域と連携した活動を継承しながら、その内容の深化や分野の拡大について検討していきたい。
- 総合学科の各系列の学び、普通科の各コースの特色、めざす卒業後の進路などについて具体化・明確化し、学科や校舎を選択する際の判断材料となる情報を早期から積極的に発信してもらいたい。
 - 各校舎の教員数の配置はどのようになるのか。
⇒ (事務局) 学校全体の教員数は標準法に基づいて配置されるが、各校舎への配置については充実した教育活動を展開するため、校舎間を教員が移動することも含め、柔軟な対応ができるよう検討している。

《紀南高等学校における通級指導の実施について》

- 特別な支援を必要とする子どもたちへの指導について、全日制高校でも通級指導として明確に位置付けて実施してもらえるのはありがたい。
- 入学後のスムーズな支援につながるよう、中学校としっかり連携して進めてほしい。
⇒ (WL) 令和6年度から紀南高校で実施する通級指導を、引き続き新校の紀南校舎において実施することに加え、木本校舎にも展開したいと考えている。

《三重大学共創の場形成支援プログラムと高校の連携について》

- このプログラムと新校の関係はどのようになるのか。
⇒ (三重大学) できれば紀南地域での活動拠点を高校に置いて、大学生と高校生と一緒に活動したり、出前授業の実施など新校の教育活動に協力したりすることを想定している。
- この事業の予算はどれくらいあるのか。また、10年先のプロジェクト終了後はどのようになるのか。
⇒ (三重大学) 「育成型」の2年間については年間2,500万円だが、セレクションを通過すると、「本格型」に移行し、年間最大2億円の予算が10年間続くことになる。その先も自走できるような体制づくりをこの10年間で行っていきたい。
- 地域外への人口流出が課題となる中、高校の活性化だけでなく地域の活性化にもつながるので、ぜひ育成型から本格型へ移行できるよう取り組んでいただきたい。

紀南地域新高等学校の校名について

1 選定した校名

三重県立 くまのせいらん 熊野青藍 高等学校

<応募理由>

「青は藍より出でて藍より青し」のように、青い海に面した学び舎で、輝く「青春」を送り、故郷の誇りである熊野の海よりも広く大きな心を持つ「青年」に成長してほしいという願いを込めた。

※応募者の記載をもとにしています。

<選定理由>

歴史ある「熊野」の地名に加え、「青藍」は紀南地域の青い海や青い空をイメージさせ、鮮烈な印象を与えてくれる。また、「青は藍より出でて藍より青し」は、弟子が師をこえて成長していくことを表しており、新校への思いや願いが感じられ、生徒が誇りを持つことができる校名としてふさわしい。

2 校名選定の経緯

- ① 令和5年9月21日に第1回紀南地域新高等学校校名選定委員会（山田康彦委員長他16名、以下「校名選定委員会」という）を開催し、校名の募集要項を策定しました。また、こども基本法の趣旨をふまえ、子どもの意見を聴取するため、紀南地域の児童生徒による投票を実施することとしました。
- ② 10月7日から11月2日まで校名を公募し、728件362種類の応募がありました。
- ③ 11月13日に第2回校名選定委員会を開催し、応募のあった校名案から児童生徒による投票のための校名候補11案を選定しました。
- ④ 11月27日から12月1日までの期間に児童生徒による投票を実施したうえで、12月18日に第3回校名選定委員会を開催し、教育委員会に提案する校名候補として「熊野」「熊野青藍」「七里御浜」の3案を選定しました。
- ⑤ 令和6年1月23日の教育委員会定例会において、校名選定委員会より提案された校名候補3案から、「熊野青藍」を選定しました。
- ⑥ 2月19日に「三重県立高等学校条例の一部を改正する条例案」として県議会に上程しました。（3月22日採決）

紀南地域新高等学校 ～「美し国三重・東紀州の人づくり」の推進～

めざす
学校像

持続可能な社会の一員として、ふるさとを想い、未来に希望を持って
幸福を実現する人材を地域とともに育てる「開かれた学校」

育みたい
資質・能力

- 自己肯定感を高め、夢や目標の実現に向けて主体的に学び続ける力（自立）
- 人との出会い・つながりを大切に、互いのよさを生かして協力・協働する力（共生）
- 自分の可能性を信じ、何事にも積極的に挑戦し未来を切り拓く力（創造）

学びのコンセプト

仲間とつながる 地域とつながる 全国・世界とつながる

特色ある
学び

- ◆2校舎の独自性を大切にしつつ、統合により連携を強化して学びを充実
- ◆幅広い選択科目を設置し、個に応じたきめ細かな教育を実現
- ◆「防災・減災・復旧・復興」がキーワードの防災教育をはじめ、地域社会の課題解決をめざした探究活動『東紀州未来学（仮称）』を実施

《《《「つながる」学びの推進》》》》

○2校舎が一体となった学び

- ◆体育祭・文化祭・学習成果発表会等の行事を両校舎で合同開催
- ◆移動用バスで両校舎の合同活動をサポート（予定）

○地域と連携した学びや活動

- ◆地域との連携や外部指導員の活用により部活動を活性化
- ◆コミュニティ・スクールの仕組みにより、地域と共に学びを支援

《《《生徒の進路希望の実現に向けて》》》》

○普通科特進コース

- ◆国公立大学・難関私立大学合格に向けて、徹底サポート

○普通科普通コース

- ◆大学・短大・看護専門学校・公務員・就職等、幅広い希望に対応

○総合学科

- ◆多彩な系列の学びで、進学から就職まで、幅広い希望に対応

《《《《これまでの2校舎それぞれの歴史や取組を生かした特色ある学び》》》》》》

学びの選択肢の充実（設置予定の科目群）

木本校舎（熊野市）

普通科（全日制）
3学級

- ◆国語・数学・英語等の共通教科を中心として、確かな学力などの「夢をかなえる力」を育成

特進コース

- ◆2年次から、文系・理系に分かれた発展的な学習で、主体的に学ぶ力を育成

普通コース

- ◆文系科目を中心に、一部の理系科目も選択でき、幅広い学びで自己のキャリアを形成

普通科（定時制）
1学級

- ◆仕事や社会生活と学習を両立
- ◆一人ひとりのペースで「なりたい自分」を実現

定時制普通科

- ◆少人数での学び直して「社会生活で必要な学力」を育成

紀南校舎（御浜町）

総合学科（全日制）
1学級・・・（連携）・・・1学級

- ◆系列ごとの科目と、系列共通の選択科目の設置
- ◆生徒の出前授業など地域交流を推進

リベラルアーツ系列

- ◆国語・数学・英語等の共通教科やスポーツ・芸術系科目等から幅広く選択

情報ビジネス系列

- ◆パソコン・会計系の資格取得等につながる、実社会で役立つ科目を選択

- ◆長期にわたる就労体験（インターンシップ）を実施
- ◆地域での体験型の授業が充実

地域デザイン系列

- ◆地域創造・文系科目や共通選択科目等から幅広く選択

産業マイスター系列

- ◆ビジネス・医療福祉系の科目等、地域産業に関わる科目を選択

紀南地域新高等学校の学びについて

1 紀南地域新高等学校において育む資質・能力（教育活動全体を通じて）

○自己肯定感を高め、夢や目標の実現に向けて主体的に学び続ける力（自立）

①自己肯定感を高めるために（すべての教育活動を通じて育む）

- ・ 生徒が、「自分も一人の人間として大切にされている」と実感する
- ・ 生徒が、体験活動等とおして、達成感や成功体験、課題に立ち向かう姿勢などにつなげる

②「自律した学習者」としての力を身につけるために

- ・ 生徒が、学ぶ楽しさや分かる喜びを実感したり、多様な他者の異なる考え方に触れながら課題を見出し解決策を考えたりする
- ・ 生徒が、自ら定める目標の実現に向けて学ぶ内容や方法を決定し、学びの状況を振り返りながら改善を行いつつ学びを続けていく

○人との出会い・つながりを大切にし、互いのよさを生かして協力・協働する力（共生）

①他者と共に支え合って生きていく力を身につけるために

- ・ 生徒が、授業等とおして、互いに認め合い・励まし合い・支え合う
- ・ 生徒が、学級活動等とおして、相手の気持ちに寄り添ったり、感謝の気持ちを伝えたりする

②対立やジレンマに対処する力を身につけるために

- ・ 生徒が、生徒会活動等とおして、異年齢の人とも協力し合いながら自発的・自治的な活動に取り組む

○自分の可能性を信じ、何事にも積極的に挑戦し未来を切り拓く力（創造）

①新たな価値を創造する力を身につけるために

- ・ 生徒が、学級や学校の中で役割を分担し協力して取り組んだり、部活動など異年齢交流とおしてリーダーシップを発揮したりして、他者や集団、社会のために役立つことを実感する
- ・ 生徒が、様々な感性や考え方等があることを認め合い、人と人との関わり合いの中で新たなアイデアが生まれ、新しい価値を創造していく

2 資質・能力を身につけるための紀南地域新高等学校の特徴となる「つながる学び」

○仲間とつながる

～校舎間移動用のバスを活用した両校舎合同の活動～

- ・ 体育祭、文化祭、成果発表会等の学校行事の合同開催
- ・ 部活動の合同練習（一部）

○地域とつながる

～地域課題解決をめざす探究活動「東紀州未来学（仮称）」～

- ・ 探究活動に必要な力を育む学習プログラムの開発
- ・ 少子化、地域産業、防災、などの多様な地域課題に取り組む

○全国・世界とつながる

～グローバルな視野と多様な価値観に触れる～

- ・ 県内高校生との学びを共有
- ・ オンラインを活用した海外の高校生等交流事業

3 各学科における特徴的な学び

(1) 普通科

共通	<ul style="list-style-type: none">・ 入学時から教育課程が異なる2つのコースに分かれ、希望進路に応じた教科を学ぶ。・ 授業はもとより放課後や長期休業中の進学補習の充実により、各自の興味・関心に応じた学びを深める。・ 探究的な学びを充実できるように、総合型選抜も視野に入れた三重大学や地域との連携を進める。
特進コース	<ul style="list-style-type: none">・ 難関大学に合格できる学力を身に付けるため、早期から「わかる」だけでなく「できる（問題が解ける）」につながる発展的な学習に取り組む。・ 2年生からは進路希望に応じて文系・理系に分かれ、必要な科目を選択して学ぶ。 ※特進コースのみの開講科目（数学Ⅲ、数学C、物理）・ 授業等を通じ、学習内容だけでなく「学習の仕方」を学ぶことで、より主体的・計画的に学ぶ力をつける。・ 三重大学高大連携東紀州講座を通じて「大学での学び」について体験し、将来の目標を具体的に考える。・ 「特進コース担任会」や「特進コース3年生進路検討会」などを計画的に開催し、進路指導や進路相談におけるアドバイスの質を高め、生徒の学びをサポートする。
普通コース	<ul style="list-style-type: none">・ 日々の授業をとおして学習に向かう姿勢を養い、大学、短大、看護・医療系専門学校、公務員、一般就職等の幅広い進路希望を実現するために必要となる学力を身につける。・ 高校生活の中で、体験的な活動や部活動などで総合的な人間力を高め、多面的な努力の成果を蓄積し、学校推薦型選抜や総合型選抜などでも活用する。・ 専門業者の協力を得た幅広い進路先を想定した模擬体験授業などを通じて、多様な進学・就職の各分野について理解を深める。

(2) 総合学科

<p>共通</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」などにおいて、防災や産業の活性化など地域社会の課題解決をめざす探究活動「東紀州未来学」に取り組む。 ・ 2年生以降は、多くの専門科目や学校設定科目を含む多彩な選択科目群から、自己の興味・関心や進路希望等に応じて科目を選択して学ぶ。 ・ 両校舎の合同発表会等により互いの学びの成果を共有するとともに、仲間とのつながりを広げ深める。
<p>リベラル アーツ 系列</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通科同様の共通教科（いわゆる「5教科」）や芸術・家庭・スポーツ等の科目から授業を選択し、興味の幅を広げたり、関心を深めたりしながら、幅広い教養を身に付ける。 ・ 小学校等への出前授業に取り組み、世代を超えたコミュニケーションを体験していく中で地域への愛着を育むとともに、自己肯定感や学習意欲を高める。
<p>情報 ビジネス 系列</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ソフトウェア活用」「ネットワーク活用」「情報処理」「簿記」など情報・商業系の専門科目等を学び、コンピューターや簿記・会計等に関する資格の取得をめざすことをとおして、それぞれの専門性を高める。 ・ 複数のパソコン室等を活用し、実習・演習を中心とした授業で実践力を高める。 ・ 「三重県立高等学校産業教育フェア」において、地元製品の販売実習等に取り組む。
<p>地域 デザイン 系列</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域産業とみかん」において地元産業を幅広く多角的に学ぶことで、地域への理解を深め、地元の持つ魅力をアピールし新しい価値の提案を目指す。 ・ 地域創造学では、「防災」等いくつかあるテーマの中から自分が探究したい課題を選択し、それらの学習を通じて地域課題解決のためのアイデアを創造する。
<p>産業 マイスター 系列</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「長期インターンシップ」では地元事業所で働くことをとおして自分の進路について考える機会とし、地元の活性化に貢献し、自己有用感を高める。 ・ 農林水産業や土木建設業、商業などさまざまな地域産業に携わる人材とつながり、社会生活に必要な資質・能力を身に付ける。

普通科の取組例 【進学対策】

学力の育成

- ・ 発展的な内容を盛り込んだ授業
- ・ 授業以外での個別学習指導
- ・ 放課後の自習環境の確保

個に応じた進路指導

- ・ きめ細かな個別進路相談
- ・ 分野別進路説明会

確かな学力・夢をかなえる力の育成

学習内容の深化、補完

- ・ 放課後補習（希望者）
- ・ 夏季集中セミナー（1・2年選抜コース他）
- ・ 夏休み補講（希望者）

学習意欲、進路意識の向上

- ・ 模擬体験授業（7月、2年生）
- ・ 三重大学高大連携東紀州講座（7～8月）

活動の様子（現木本高校普通科における活動より）

1・2年生 夏季集中セミナー（校内）



2年生 学習合宿（熊野少年自然の家）



三重大学高大連携「東紀州講座」



総合学科の取組例(1)【小学校等への出前授業】

(木本校舎:3年次「国際英語」)

三学期

【出前授業とは】

- ・総合学科3年次の選択授業
- ・地元、木本小学校の3、4年生及び5、6年生を対象に、高校生が英語の授業を行う
- ・内容は、ゲームや対話を通して小学生が学んだ英語を高校生と使う

二学期

- ◇コミュニケーションの基礎(語彙)を学ぶ
- ◇小学生の学習状況を知る
- ◇1回目の出前授業の準備、企画検討、リハーサルを行う
- ◇1回目の出前授業の振り返りを行う

- ◇1回目の出前授業の振り返りから改善点を話し合う
- ◇2回目の出前授業の準備、企画検討、リハーサルを行う

- ◇出前授業全体を通しての振り返りを行い、その成果と課題を整理する
- ◇校外外で学習成果を発表する

一学期

【先輩の声】

- ★小学生の英語力にびっくりした
- ★年齢が離れていたからコミュニケーションの取り方が分からなかった
- ★小学生がやる気を出してくれてよかった

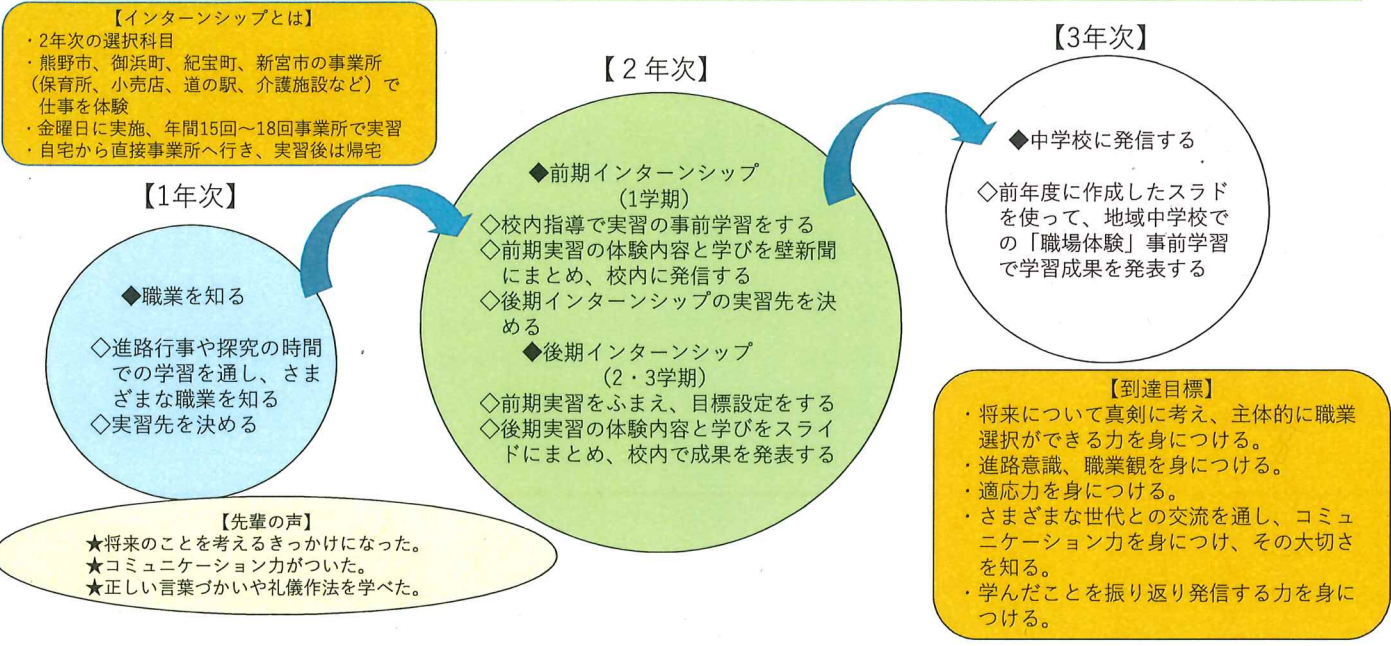
【到達目標】

- ・世代を越えたコミュニケーション能力を身につける。
- ・地域に対する愛着を育む。
- ・英語の運用能力を向上させる。

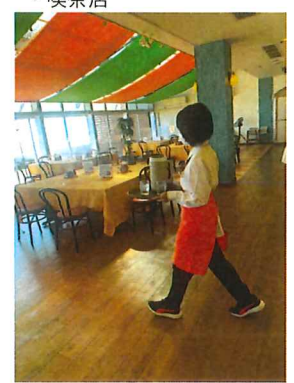
授業の様子(木本小学校における、現木本高校生の活動より)



総合学科の取組例(2)【就労体験(長期インターンシップ)】 (紀南校舎：2年次、6単位)



実習の様子(現紀南高校生の活動より)



入学者選抜（全日制）について

1 現状（令和6年度入学者選抜）

前期選抜

木本高校 実施学科：総合学科
 募集定員：定員40名の50%
 検査：学力検査（数学、英語）、個人面接

紀南高校 実施学科：普通科
 募集定員：定員80名の30%
 検査：学力検査（国語）、個人面接

後期選抜

木本高校 実施学科：普通科、総合学科
 検査：学力検査（国語、数学、社会、英語、理科）
 紀南高校 実施学科：普通科
 検査：学力検査（国語、数学、社会、英語、理科）、個人面接

2 令和7年度入学者選抜（案）

- ・入学者選抜は紀南地域新高等学校として一括で実施する

前期選抜

実施学科：総合学科（木本校舎）、総合学科（紀南校舎）
 募集定員：各学科（校舎）定員40名の30%
 検査：学力検査（国語）、個人面接
 検査会場：紀南校舎

※前期選抜では第2志望学科を記入することはできない。（県全体の規定）

後期選抜

実施学科：普通科、総合学科（木本校舎）、総合学科（紀南校舎）
 検査：学力検査（国語、数学、社会、英語、理科）
 検査会場：木本校舎

※後期選抜では、第2志望学科を記入することができることとする。

例① 第1志望：普通科 → 第2志望：総合学科（木本校舎）

例② 第1志望：総合学科（紀南校舎） → 第2志望：総合学科（木本校舎）

※普通科のコース（特進・普通）については、合格発表後に入学者の希望をふまえ、入学時まで決定することとする。

新校ワーキング会議で検討中の案であり、今後変更する可能性があります。
 決定した内容および詳細は、令和6年7月以降に県教育委員会が公表する入学者選抜実施要項等に記載します。

部活動について

1 現状

(1) 部活動の設置状況（R5.5現在）

運動部				文化部							
木本高校		人数	紀南高校		人数	木本高校		人数	紀南高校		人数
硬式野球	27		硬式野球	12	美術	15	美術	16			
ソフトテニス	26		ソフトテニス	14	書道	9	書道	3			
バスケット（男子）	23		バスケット（男子）	8	吹奏楽	48	吹奏楽	2			
卓球	20		卓球	9	茶道	16	茶道	11			
柔道	14		柔道	6	JRC	31	JRC	2			
バドミントン（女子）	20		バドミントン（女子）	9	漫画研究	16					
サッカー	20				写真	12					
ラグビー	27				放送	9					
体操	11						ESS	7			
バレー（女子）	12						家庭	9			
剣道	5						華道	0			
			陸上競技	2			ワープロ	0			
			バドミントン（男子）	8							

共通6、木本のみ5、紀南のみ2

共通5、木本のみ3、紀南のみ4

(2) 年度進行に伴う生徒の在籍状況

令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度	
木本校舎	紀南校舎	木本校舎	紀南校舎	木本校舎	紀南校舎	木本校舎	紀南校舎
木本3年	紀南3年	木本3年	紀南3年	木本3年	紀南3年		紀南新校3年
木本2年	紀南2年	木本2年	紀南2年		紀南新校2年		紀南新校2年
木本1年	紀南1年		紀南新校1年		紀南新校1年		紀南新校1年

(3) 大会参加に係る単独または合同の編成の例（第1回協議会資料より）

		木本（在校生）	紀南（在校生）	紀南新校
A	3校合同	合	合	合
B	2校合同、1校単独	ア	合	単
		イ	合	合
		ウ	単	合
C	3校単独	単	単	単

2 検討状況（案）

- 令和6年度は、令和7年度の開校に向け2校間を往復するバスを運行し、木本高校と紀南高校の生徒が両校ともに設置している11の部活動を中心に交流・合同活動等ができるようにする。
- 令和7年度以降は、令和6年度の活動状況をふまえつつ、2校舎間を往復するバスを運行し、新校の生徒が校舎を越えて部活動に参加できるようにする。
- なお、令和7～8年度における大会参加については、規定に基づき部活動ごとに定めることとし、令和9年度以降については、新校として両校舎が一体となって大会に参加する。
- また、令和7～8年度の木本高校と紀南高校の生徒は、各学校に設置されている部活動の範囲内での活動を基本とする。（検討中）

制服について

1 経緯

(1) 新校ワーキング会議生徒指導部会 (R5. 5. 16)

○ 新校の制服について

- ・ 新校の開校にあたり一体感が得られることや、性の多様性を尊重する観点、総合的な探究の時間等での活動のしやすさ等を考慮する。
- ・ 家計への負担ができるだけ小さくなるようにする。
- ・ 変更するか否かについては、中学生のアンケートをふまえ決定する。
- ・ 変更する場合は、詰め襟、セーラー服だけでなく、スーツタイプまたはブレザータイプも検討する。

(2) 紀南地域高等学校活性化協議会

○ 第1回協議会 (R5. 7. 21)

- ・ ジェンダーフリーの観点を取り入れることや、生徒がさまざまな活動をする際の機能性についても考慮して検討する。
- ・ 新校としての統一感が得られることから、新しい制服への変更を検討する。
- ・ 新しい制服を検討する際には、アンケートなどを実施し、子どもたちの意見を反映させられるよう検討する。

○ 第2回協議会 (R5. 11. 20)

- ・ 新校としての一体感が得られることや、性の多様性を尊重する観点、また総合的な探究の時間等での活動のしやすさも考慮し、新しい制服への変更について検討を進めている。
- ・ 新しい制服のデザイン等の検討にあたっては、中学生へのアンケートを実施し、子どもたちの意見を参考にできるように検討を進めている。
- ・ 制服の変更については、家計への負担ができるだけ小さくなるよう検討を進めている。

(3) 紀南地域の中学生を対象にアンケートを実施 (11月)

(4) 新校ワーキング会議生徒指導部会 (R5. 12. 14)

- ・ 中学生アンケート結果をふまえ、制服を新しくすることを決定

(5) 第1回制服検討委員会 (R5. 12. 27)

- ・ 企画提案コンペを行い、取扱事業者を選定

(6) 木本高校と紀南高校の生徒・教職員を対象にアンケートを実施 (2月)

- ・ 制服のサンプルを展示したうえで、アンケートを実施

(7) 第2回制服検討委員会 (R6. 3. 1)

- ・ 高校生等へのアンケート結果をもとにデザイン案について決定

2 中学生へのアンケート結果

対 象：熊野市、御浜町、紀宝町の公立中学1・2年生全員（5/1 現在 482 人）

回 答 数：340（70.5%）

実施時期：令和5年11月9日から11月28日

（1）制服の有無について

回答項目	割合	分析
あったほうがよい	54.7%	制服が <u>ある</u> ことに肯定的 69.1%
どちらかというにあったほうがよい	14.4%	
ないほうがよい	8.2%	制服が <u>ない</u> ことに肯定的 10.0%
どちらかというのないほうがよい	1.8%	
どちらでもよい	19.4%	
わからない	1.5%	

（2）冬服のタイプについて

- ・ スーツタイプのズボン 32.9%、同スカート 6.5%
- ・ ブレザータイプのズボン 13.8%、同スカート 39.1%

（3）冬服の色について

- ・ 黒系（40.0%）、紺系（30.9%）

（4）冬服のネクタイ・リボンについて

- ・ ネクタイ 29.4%、リボン 24.4%、何もつけない 27.1%

（5）夏服について

- ・ カッターシャツ型 79.1%、ポロシャツ型 19.4%

（6）制服を選ぶときに重視すること（複数回答可）

- ・ デザイン 67.6%、着心地 62.6%、価格 47.6%、生地（丈夫、洗濯可） 46.8%、生地（防臭、防寒等） 37.1%

3 中学生へのアンケートをもとにした制服のサンプル

A (ブレザー型・上下色違い)



B (ブレザー型・上下色違い)



C (スーツ型・上下同色)



4 高校生へのアンケート結果

対 象：木本高校、紀南高校の1・2年生全員（5/1 現在 455 人）および教職員

回 答 数：木本高校生徒 142、紀南高校生徒 127（59.1%）

教職員 17

実施時期：木本高校 令和6年2月6日から2月13日

紀南高校 令和6年2月15日から2月22日

実施方法：3つのサンプルを展示したうえで実施

(1) A～Cのどの制服がよいと思いますか。

- ・ A (ブレザー型) 36.8%、B (ブレザー型) 45.0%、C (スーツ型) 11.9%

(2) 冬服の色について

- ・ サンプルと同色 38.3%、黒系 19.7%、紺系 20.4%

(3) 冬服のネクタイ・リボンについて

- ・ ネクタイ 36.4%、リボン 30.9%、何もつけない 16.0%

(4) 夏服について

- ・ カッターシャツ型 81.0%、ポロシャツ型 17.5%

(5) 制服を選ぶときに重視すること（複数回答可）

- ・ デザイン 76.6%、着心地 54.6%、価格 41.6%、生地（風合い、肌ざわり）40.9%、
生地（丈夫、洗濯可）36.4%、生地（防臭、防寒等）34.9%

校章、校歌について

1 検討状況

- ・ 新校のコンセプトは9月に公表されているものの、校名については3月末に決定することとなる。
- ・ 校章および校歌の検討については、校名そのものだけでなく、校名に込められた想いをふまえる必要がある。
- ・ そのため、校名が正式に決定したのちに具体的な検討を進めることとする。
- ・ 具体的な検討は新校ワーキング会議で行うことを基本とする。ただし、作成方法によっては、別途会議体を設置する必要性についても検討する。

2 【参考】本県や他府県における作成方法の事例

(1) 校章について

- ・ デザインを公募（名張青峰高校、他県事例多数）
 - ① 応募のあったデザインから原案を選定
 - ② 選定された原案をもとに、仕上げを専門業者に依頼
- ・ デザイナーなど専門家に依頼（伊賀白鳳高校）

(2) 校歌について

- ・ 作詞・作曲ともに専門家に依頼
（作詞者と作曲者が同じ場合と異なる場合あり、他県事例多数）
- ・ 歌詞を公募し、作曲は専門家に依頼（伊賀白鳳高校、他県事例多数）
- ・ 歌詞を公募し、曲は前身校のものを用いる
（名張青峰高校：名張桔梗丘高校の曲を使用）
- ・ 歌詞のキーワードを公募したうえで、作詞・作曲はAIを活用
（桑名市立多度学園 ※R 8. 4 開校予定）
- ・ 生徒や教職員が作詞・作曲（他県事例あり）
- ・ 前身校の校歌を引き続き使用（相可高校 ※宮川高校と統合）

高校生活入門講座（オープンスクール）について

以下は、現在検討中の案です

1 実施時期

- ・ 令和6年8月20日（火）～23日（金）のうち1日

2 日程

8：45～ 9：00	受付	}	木本高校
9：10～ 9：15	日程説明・連絡		
9：15～10：00	木本校舎の説明（45分）		
10：15～11：05	授業体験①（50分）		
11：10～11：40	部活動見学・進路相談等		
※午前みの参加者は終了			
※午後（紀南校舎）にも参加する生徒は、昼食休憩			
12：30～	バス（3台程度）で紀南高校へ移動		
12：55～13：10	受付（紀南校舎みの生徒）	}	紀南高校
13：20～13：25	日程説明・連絡		
13：25～13：55	紀南校舎の説明（30分）		
14：10～15：00	授業体験②（50分）		
15：05～15：35	部活動見学・進路相談等		
バスで熊野市駅・木本高校へ（希望者）			

3 授業体験の内容

- ・ 各教科担当が、各学科および系列・コースを意識した講座内容を企画する。
- ・ 参加講座は、科・系列・コースの希望によらなくてもよいこととする。

<体験授業①（木本高校）>

【普通科】

数学、英語、国語、社会、理科

【総合学科】

リベラルアーツ系列：書道、音楽、英語

情報ビジネス系列：商業・情報

} 家庭、保健体育

<体験授業②（紀南高校）>

【総合学科】

地域デザイン系列：国語・数学・（社会・英語）

産業マイスター系列：商業・体育・（福祉・通級による指導）